

総務部会は自然体験活動参加者の安心・安全をさらに高め、本来の活動が無事故で行われること、事故が起こっても被害を最小限に留めるためにリスクマネジメントに取り組んでいます。取り組み項目は表-1のとおりです。

表-1 リスクマネジメント取り組み項目

項 目	概 要
ヒヤリハットと事故情報の共有化	類似事故防止を図るため、事故情報を収集、グループ代表者に発信するとともに、ホームページに掲載
ヒヤリハットと事故の分析	重大案件発生時には対策会議を行い、事故の原因分析と再発防止策を取り纏め
スタッフ研修の実施	活動の推進役であるスタッフを対象に、安全への見聞を広め、安全への感性を高めるために1回／年実施
安全管理マニュアルの策定	事故防止と事故発生時の被害最小限対策を取り決めた手順書を安全管理マニュアルとして策定
ボランティア保険の加入	事故発生時の経済的対応のため、傷害事故保険と賠償責任保険に加入

リスクマネジメントを事業計画に取り上げ本格的に取り組んできたのは2013年度からです。取り組み項目のなかで残されていた安全管理マニュアルについては、2015年度に整備できたため、2016年度のリスクマネジメント研修会のテーマとして事業実施グループのスタッフを対象に実施しました。

保全協会の事業の中から、安全管理マニュアルの対象にしたのは里山保全と自然観察会です。

自然観察会 安全管理マニュアル研修会

対象グループが多いため、休日（8月27日（土）13時30分～18名参加）と平日（8月30日（火）19時～15名参加）の2回行いました。

自然観察会安全マニュアルは内容を解説規定とチェックリスト規定に分け、規定項目は①事前の準備段階②活動計画と広報③実施段階④事後の処置段階⑤事故発生時の処置、として46項目を定め、チェックリスト規定は現場で使用し易くするため、解説規定を要約しグループ独自の項目も追加できるようにしました。

各グループとも46項目の内容について概ね周知されていますが、「安全専任者を決めること」、「出席簿個人情報の取り扱いの連絡」、

「雷注意報発令時に避難場所が確保できない場合は中止する」、「復路事故の保険適用可」等は認識を新たにされました。

意見交流で出された主なものは、

- ①ホームページに事故情報が掲載されているとは知らなかった。研修会後、空の会では「空の会だより」にホームページ事故情報閲覧方法を掲載されました。
- ②雷注意報発令時の避難場所の対応は難しいが、しっかり認識しないとイケない。
- ③降水・雷・竜巻などの天候が怪しい時は、気象庁のホームページ「ナウキャスト」より情報が得られるのを知ったが、現場ではスマホが必要となる。



写真-1 自然観察会安全管理マニュアル研修会



写真-2 里山安全対策会議

- ④救急袋にボイズンリムーバーを入れていないので購入しよう。しかし、入っていても使い方を訓練していないとイザというときに役立たない。
- ⑤救急袋の点検が必要である。
- ⑥ボランティア保険の適用可否について（車利用事は適用されるのか？行事後の発症の申請について期限はいつまでか？保険適用されない事故は？等）

各グループは、1年ほど試行し自分たちの安全管理マニュアルを策定していくことにしました。

里山安全対策会議

里山保全活動グループは、刃物を使った保全活動をするだけに自然観察会グループとは事情が異なり、いずれのグループもそれぞれ安全への取り組みを行い活動されています。

里山保全安全管理マニュアルについては、昨年度より安全対策会議を行うなかで成案化しました。今

回は第3回目として、9月28日（木）19時より10グループの参加により行い、近況報告では、共通的に若年者が極めて少なく、60歳代は若い人という位置付になっていることがあげられました。

里山保全安全管理マニュアルでは、自然観察会安全管理マニュアルと同様に55項目定めています。これに対して、各グループのメンバー構成、保全内容、フィールド等の実情を踏まえ、一律に適用するのではなく、自グループとして取捨選択をして、試行していくこととしました。

最近の事故事例からの重要課題では、「雷」、「スズメバチ」、「熱中症」、「マダニ」、「落枝」について取り上げ、最近の死亡事故事例を紹介し、予防策、事故発生時の処置について報告し意見交換の上、再発防止の確認をしたところです。

全般の意見交流の中においては、ヒヤリハットの抽出も課題として挙げられました。

簡単にタイミング良くヒアリングす

るには、作業終了時のふりかえり時であるため、忘れずに行うことにしました。

事故は無知と無理から起こる！※

研修会は、「事故は無知と無理から起こる！」という提言を纏めました。

保全協会にはこれまで報告された事故事例が約50件に上り、ホームページにも掲載しています。加えて、経験・体験、研修会、専門書、報道、判例などにより見聞を広めることができます。こうしたことが、危険を危険と感じる感性を高め、これに五感を活用し危険予知を行えば無理な行動に結びつかないこととなり、事故は防げるのです。

この研修会を機会にさらに安心・安全をさらに高めていくことを誓い合いました。

ご安全に！

※参考文献

「落雷は防げないが落雷事故は防げる」望月浩一郎